社会科シリーズ掲載

授業グレードアップ Vol. 14

中学校における歴史学習の工夫② ～学習課題の設定 "AよりB" ～

学びがいのある魅力的な学習課題は、子どもたちの追究意欲を高めて、授業のねらいに迫る学びを生み出します。

今回は、追究の視点をより具体的にする学習課題の設定についての実践例を紹介します。

資料の提示で学習課題を "具体的な表現" にする。

小単元「江戸幕府の成立と支配のしくみ」における学習課題の設定

この単元の目標は、『中学校学習指導要領　社会編』で次のように示されています。

> 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。（※ 下線は筆者）

この目標に迫るために、Ａのような学習課題を設定した授業を見ることがあります。

Ａ　「なぜ、江戸幕府は約２６０年も続いたのだろうか」

Ａの学習課題は、主語が「江戸幕府は」となっており、子どもたちは、江戸幕府という広く大きい視点で追究することになります。

子どもたちの追究の視点をより具体的にするために、教科書に掲載されている次の二つの資料を提示します。

「源氏と北条氏の系図」と「徳川氏の系図」

この二つの資料を比較させることで、徳川氏が十五代にもわたって長期的に政権を維持し、全国を支配し続けたことを、子どもたちに明確にとらえさせることができます。

これにより、次のＢの学習課題を設定することができます。

Ｂ　「なぜ、徳川氏は約２６０年にわたって全国を支配できたのだろうか」

Ｂの学習課題は、「徳川氏」が「全国を支配できた」理由を解決するという、追究の視点が、Ａの学習課題に比べてより具体的になります。

このように、追究の視点を具体的にする学習課題を設定するには、徳川氏の支配が長く続いたことを示す具体的な資料を提示することが有効な手段の一つです。

次回は、Ｂの学習課題を追究する際の資料活用について紹介します。